

全学的観点からみた回答の傾向（大学）

1. 平成20年度の全体的傾向

平成20年度授業評価アンケート結果集計結果を全学的に分析すると、以下の点が顕著にあがってくる。

前期授業15回、後期授業15回に関する項目で、「5」=欠席0回、「4」=欠席1回としたところ、前期・後期ともに平均値が4.2であった。このことから、本学の学生について15回の授業のうち平均して皆勤または1回欠席したのみであったという結果がでた。これはかなり高い授業出席率である。

「評価帯グラフ」から、「Q1 授業のテーマははっきりしていた」、「Q11 教員の授業への取り組みに熱意や情熱を感じた」の2項目について、「強くそう思う」と「ややそう思う」の合計がそれぞれ70%前後で、比較的高い評価がなされている。

一方、比較的低い評価（「強くそう思う」と「ややそう思う」の合計が50%未満）であったのは「Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた」、「Q13 私は授業に意欲的に取り組んだ」、「Q15 私は講義概要（シラバス）をこの履修科目の選択に利用した」の3項目であった。

これらのことから、（1）教員の成績評価の方法をより明確にすること、（2）学生が授業に意欲的に取り組む方向への動機付け、（3）学生のシラバス活用に向けてのさらなる指導を今後の課題としてあげることができる。

2. 平成18年度後期と平成20年度後期の全体的結果比較

次に、各質問項目について、平成18年度後期と平成20年度後期の全学（大学）の平均値を比較した結果を紹介する（表1参考）。

表1には平成18年度後期と平成20年度後期に共通する同じ質問のみをあげた。

その結果、13の共通項目のうち8項目、つまり「Q2 授業のわかりやすさ（-0.1）」「Q6 授業中の教材は適切であった（-0.1）」「Q7 成績評価の仕方は明確であった（-0.2）」「Q8 教員の話し方は明瞭だった（-0.1）」「Q10 教員は質問に適切に対応した（-0.1）」「Q11 教員の授業取組に熱意を感じた（-0.1）」「Q12 教員は学生の反応を見て進めた（-0.1）」「Q14 私は授業に満足した（-0.1）」では全学（大学）平均値が0.1～0.2下がったことがわかる。

残りの4項目は平成18年度と平成20年度の平均値は同一であり、平成20年度で平均値が上がった項目は1つだけであった。

平成18年度と平成20年度のアンケート調査で同じ項目を使用したため、今回、本学として初めて過去と現在の評価の比較ができたわけである。その結果、平成20年度後期の評価は平成18年度のそれと比べて、学生による 1) 授業について 2) 教員について の評価が下がったことが把握できる。

これらの結果を我々は真摯に受け止め、今後の授業の改善に向かい、直ちに真剣に取り組む必要があると考える。

【表1 平成18年度後期と平成20年度後期の全学（大学）項目別平均値の比較】

項 目	平成18年度後期	平成20年度後期	差 (-)
Q 1 授業のテーマの明確さ	4.0	4.0	0
Q 2 授業のわかりやすさ	3.7	3.6	- 0.1
Q 3 授業内容に興味・関心をもてた	3.7	3.7	0
Q 4 授業はよい刺激をあたえた	3.6	3.6	0
Q 6 授業中の教材は適切であった	3.8	3.7	- 0.1
Q 7 成績評価の仕方は明確であった	3.8	3.6	- 0.2
Q 8 教員の話し方は明瞭だった	3.9	3.8	- 0.1
Q 9 教員のプレゼンは適切であった	3.7	3.7	0
Q 10 教員は質問に適切に対応した	3.9	3.8	- 0.1
Q 11 教員の授業取組に熱意を感じた	4.0	3.9	- 0.1
Q 12 教員は学生の反応を見て進めた	3.8	3.7	- 0.1
Q 14 私は授業に満足した	3.7	3.6	- 0.1
Q 15 私はシラバスを授業選択に利用した	3.2	3.4	0.2

3. 平成20年度アンケート項目別全学的回答傾向（大学）

最後に、本年度の、それぞれの質問項目について、全学的回答傾向をまとめたものを以下に報告する。

1) この授業について

(1) 授業のテーマははっきりしていた

全学（大学）の前期・後期ともに平均は4.0であった。この項目で一番高かったのは「教職課程（教職）」後期の4.5で、一番低かったのは「共通教育」前期・後期の3.8であった。

(2) 授業の内容を理解できた

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.6であった。この項目で一番高かったのは「教職」後期の4.1で、一番低かったのは「共通教育」前期・後期の3.5であった。

(3) 授業内容に興味・関心をもてた

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.7であった。この項目で1番高かったのは「教職」後期の4.2で、2番目に高かったのは「英語英文学科」前期・後期、「心理学部」前期、「教職」前期の3.9であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期の3.5であった。

(4) この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.6であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.3で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期、「教職」前期の3.9であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期の3.4であった。

(5) この授業では、学習に集中することができた

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.6であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.2で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の3.9であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期の3.4であった。

(6) 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.7であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.2で、2番目に高かったのは「学校図書館司書教諭」前期の4.1であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」後期の3.5であった。

(7) 成績評価の仕方が明確に示されていた

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.6であった。この項目で最も高かったのは「学校図書館司書教諭」前期と「教職」後期の3.9で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の3.8であった。この項目で最も低かったのは「生活福祉文化学科」後期の3.4であった。

2) 教員について

(8) 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.8であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.4で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期と「教職」前期の4.1であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期の3.6であった。

(9) 教員のプレゼンテーション（板書・パワーポイント・CDプレーヤーなど）は適切であった

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.7であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.1で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の3.9であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期と「学校図書館司書教諭」前期の3.5であった。

(10) 教員は学生の質問や相談に適切に対応した

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.8であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.3で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の4.1であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期の3.6であった。

(11) 教員の授業への取り組みに熱意や情熱を感じた

全学（大学）の前期の平均は4.0で、後期のそれは3.9であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.5で、2番目に高かったのは「教職」前期の4.3であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期と「生活福祉文化学科」後期の3.8であった。

(12) 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

全学（大学）の前期・後期とも平均は3.7であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.2で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の4.0であった。この項目で最も低かったのは「学校図書館司書教諭」前期の3.4であった。

3) この授業に対するあなた自身のことについて

(13) 私はこの授業に意欲的に(熱心な授業態度・予習/復習をするなど)取り組んだ

全学(大学)の前期・後期とも平均は3.5であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.1で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の3.8であった。この項目で最も低かったのは「生活福祉文化学科」後期の3.3であった。

(14) 私はこの授業に満足した

全学(大学)の前期・後期とも平均は3.6であった。この項目で最も高かったのは「教職」後期の4.2で、2番目に高かったのは「英語英文学科」後期の3.9であった。この項目で最も低かったのは「共通教育」前期・後期の3.4であった。

(15) 私は講義概要(シラバス)をこの履修科目の選択に利用した

全学(大学)の前期・後期とも平均は3.4であった。この項目で最も高かったのは「人間文化学科」後期と「教職」後期の3.7で、2番目に高かったのは「人間文化学科」前期と「英語英文学科」後期の3.6であった。この項目で最も低かったのは「学校図書館司書教諭」前期の2.9であった。

(16) この授業では何回欠席しましたか

前期・後期とも15回のうち0回欠席した場合「5」、1回欠席は「4」、2～3回は「3」、4～5回は「2」、6回以上は「1」としたため、平均点が高いほど、出席率がよいことになる。

全学(大学)の前期・後期とも平均は4.2であった。出席率の得点として最も高かったのは「教職」前期・後期と「その他の資格科目」後期の4.4で、2番目に高かったのは「心理学部」前期・後期、「共通教育」前期、「生活福祉文化学科」前期の4.3であった。出席率の最も低かったのは「英語英文学科」後期の3.9であった。